12/
21(Sat)

立命館大学衣笠キャンパス
創思館カンファレンスルーム

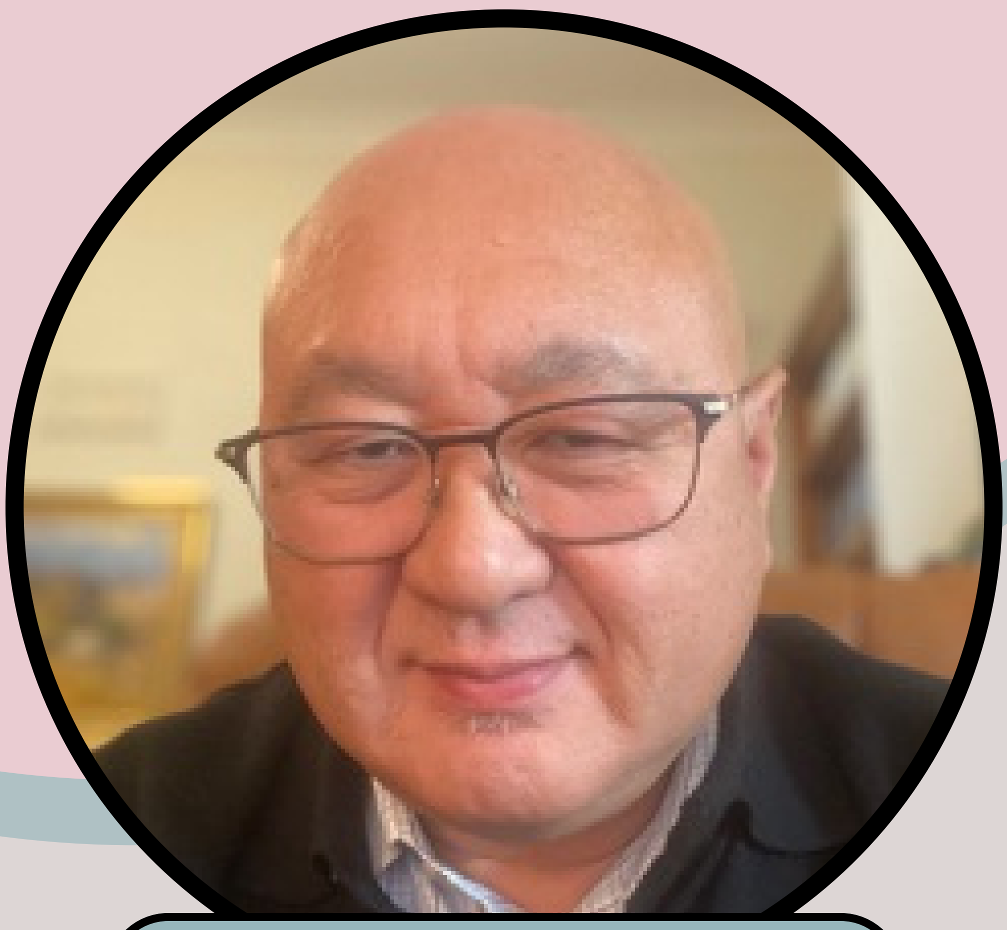
13：30
−17：00

第二次世界大戦の長期的影響に関する
学際的シンポジウム2024

平和ミュージアムの挑戦
ー記憶と対話を通じた
戦争によるトラウマの癒し

1、基調講演　アジア太平洋戦争による集団的・文化的トラウマの癒しにおける平和ミュージアムの役割

13:45-15:05



Dr. Eugen Koh

精神科医、セント・ヴィンセント病院シニア・コンサルタント。立命館大学人間科学研究所客員研究員。紛争解決や平和構築など集団的・文化的トラウマから生じる問題に関わり、国際的に活躍中。「日本における第二次世界大戦による長期的影響に関する学際的シンポジウム」の設立メンバーでもある。

集団的・文化的なトラウマの癒しには、人々が安全な空間で集まり、何が起こったのか、それが集団や国として自分たちにどのような影響を与えたのかを振り返り、今感じていることを受け入れることが必要である。平和博物館は、人々が共に癒しを得るための重要な空間となり得る。そのような癒しの場の特徴を説明し、中立的な立場を維持し、展示がプロパガンダにならないようにするために学芸員が直面する課題について論じる。

共催 立命館大学大学院人間科学研究科、立命館大学国際平和ミュージアム、日本における第二次世界大戦の長期的影響に関する学際的シンポジウム
後援 立命館大学人間科学研究所
問い合わせ先
日本における第二次世界大戦の長期的影響に関する
学際的シンポジウム実行委員会
HP　https://scholars-net.com/cultural_trauma/
Mail　ww2japansym@gmail.com

参加無料
事前申し込み不要

事前に立命館の国際平和ミュージアムの展示をご覧いただくことをおすすめします。（入館料400円）

本シンポジウムは、りそなアジア・オセアニア財団2024 年度国際学術交流助成の助成を受けて実施されます。

2、資料を伝える、展示する
ー平和ミュージアムの仕事

15:15-15:45

田鍬美紀

4万点をこす国際平和ミュージアムの収蔵資料。常設展示されるのはそのごく一部であるが、それらはどのように残されてきたのか、これからどのように伝えられていくのか。公に開かれた展示という場で資料が果たす役割と、資料を後世へ伝えていく博物館の活動を通じて、資料に込められた人々の思いを紐解く。

プロフィール 立命館大学国際平和ミュージアム学芸員。国際協力機構青年海外協力隊にてヨルダン、カラク城考古学博物館派遣、日本とヨルダンの共同プロジェクトによる博物館建設事業に従事。公益財団法人鳥取市文化財団・鳥取市歴史博物館等の勤務を経て2017年より現職。

原義和

プロフィール 1969年愛知県名古屋市生まれ。2005年より沖縄を生活拠点にドキュメンタリー番組の企画制作を行う。主な制作番組:「戦場のうた～元"慰安婦"の胸痛む現実と歴史」「BORN AGAIN～画家 正子・R・サマーズの人生」など。2021年には映画「夜明け前のうた～消された沖縄の障害者」を劇場公開。

3、失われた戦争の記憶・入り組んだ加害と被害
ー製作中の映画から

15:45-16:25

映像による歴史の伝承はトラウマの癒しにつながるのか。戦争にまつわる記憶は常に沈黙と共にある。中国大陸で侵略に手を染めた兵士の多くは、固く口を閉ざすことでトラウマを沈殿化させ、本人も社会もその癒しの機会を失い、むしろ蝕まれてきた。戦争トラウマは現代にも深く影を落とす。失われた記憶を掘り起こし映像で社会に共有することは、トラウマの真の解決や癒しにつながると信じ、映画を製作する。

タイムテーブル

13:30-開会　**挨拶　君島東彦**　（国際平和ミュージアム館長　立命館大学特命教授）
司会　村本邦子　（立命館大学大学院人間科学研究科教授）

13:45-15:05　**Dr. Eugen Koh 基調講演**「アジア太平洋戦争による集団的・文化的トラウマの癒しにおける平和ミュージアムの役割」（逐次通訳）

15:05-15:15　**休憩**

15:15-15:45　**田鍬美紀**（立命館大学国際平和ミュージアム学芸員）
「資料を伝える、展示するー平和ミュージアムの仕事」

15:45-16:25　**原義和**（映像ディレクター／映画監督）
「失われた戦争の記憶・入り組んだ加害と被害～製作中の映画から」

16:25-17:00　**ディスカッション**